

第23回建設業経理士検定試験

1級財務分析試験問題

注意事項

1. 解答は、解答用紙に指定された解答欄内に記入してください。解答欄外に記入されているものは採点しません。
2. 金額の記入にあたっては、以下のとおりとし、1ますごとに数字を記入してください。

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | | |
| ↑ | ↑ | ↑ | ↑ | ↑ | ↑ | ↑ | ↑ | ↑ |
| 一 | 千 | 百 | 十 | 一 | 千 | 百 | 十 | 一 |
| 億 | 万 | 万 | 万 | 万 | の | の | の | の |
| の | の | の | の | の | 位 | 位 | 位 | 位 |
| 位 | 位 | 位 | 位 | 位 | | | | |

3. 解答は、指定したワク内に明瞭に記入してください。判読し難い文字が記入されている場合、その解答欄については採点しません。
4. 消費税については、設問で消費税に関する指示がある場合のみ、これを考慮した解答を作成してください。
5. 解答用紙には、氏名・受験番号シール貼付欄が2カ所あります。2カ所とも、氏名はカタカナで記入し、受験番号は受験票に付いている受験番号シールを貼ってください。なお、受験番号シールがないときは、自筆で受験番号を記入してください。
(氏名・受験番号が正しく表示されていないと、採点できない場合があります。)

〔第1問〕 次の問に解答しなさい。解答にあたっては、各問とも指定した字数以内で記入すること。

(20点)

問1 企業の総合評価の必要性について、内部分析と外部分析の観点から説明しなさい。(250字以内)

問2 総合評価の具体的な手法としてのレーダー・チャート法について説明しなさい。(250字以内)

〔第2問〕 次の文の の中に入る適当な用語を下記の〈用語群〉の中から選び、その記号（ア～ノ）を解答用紙の所定の欄に記入しなさい。(15点)

生産性分析とは、投入された生産要素がどの程度有効に利用されたかを分析することをいい、単純には、生産性はアウトプットをインプットで除したものと表現することができる。分母のインプットは、一般的には 1 と 2 である。一方、分子のアウトプットは、通常は付加価値の金額を採用し、その金額の算定方法には 3 と控除法がある。

付加価値に減価償却費を含めた場合を 4 と呼んでいる。また、建設業における付加価値の算式は、 5 - (材料費 + 6 + 外注費) で示される。

生産性分析の基本指標は、付加価値労働生産性の測定であるが、この労働生産性はいくつかの要因に分解して分析することができる。一つは、一人当たり 5 × 7 に分解され、二つめは、 8 × 総資本投資効率であり、 8 は一人当たり総資本を示すものである。三つめは、 9 × 設備投資効率である。 9 は、従業員一人当たりの生産設備への投資額を示しており、工事現場の機械化の水準を示している。ここでの有形固定資産の金額は 10 のような未稼働投資の分は除外される。いずれの分析においても、従業員数、総資本、有形固定資産の数値は 11 であることが望ましい。

〈用語群〉

- | | | | |
|---------|----------|----------|----------|
| ア 完成工事高 | イ 経費 | ウ 純付加価値 | エ 資本集約度 |
| オ 営業利益 | カ 付加価値率 | キ 労働装備率 | ク 建設仮勘定 |
| コ 労務外注費 | サ 粗付加価値 | シ 加算法 | ス 資本生産性 |
| セ 労務費 | ソ 総資本回転率 | タ 期中平均値 | チ 期末残高数値 |
| ト 労働力 | ナ 簡便法 | ニ 完成工事原価 | ネ 設備資本 |
| ノ 土地 | | | |

〔第3問〕 次の〈資料〉に基づいて (A) ~ (D) の金額を算定するとともに、完成工事高営業外損益率も算定しなさい。なお、完成工事高営業外損益率がプラスの場合は「A」、マイナスの場合は「B」を解答用紙の所定の欄に記入しなさい。この会社の会計期間は1年である。なお、解答に際しての端数処理については、解答用紙の指定のとおりとする。(20点)

〈資料〉

1. 貸借対照表

貸借対照表

(単位：百万円)

| (資産の部) | | (負債の部) | |
|----------|--------|---------|--------|
| 現金預金 | ××× | 支払手形 | 3,100 |
| 受取手形 | (A) | 工事未払金 | 26,150 |
| 完成工事未収入金 | 28,300 | 短期借入金 | (C) |
| 未成工事支出金 | (B) | 未払法人税等 | ××× |
| 材料貯蔵品 | 430 | 未成工事受入金 | (D) |
| 流動資産合計 | 63,750 | 流動負債合計 | ××× |
| 建物 | 22,100 | 長期借入金 | ××× |
| 機械装置 | 4,070 | 退職給付引当金 | 11,000 |
| 工具器具備品 | 2,800 | 固定負債合計 | ××× |
| 車両運搬具 | 1,900 | 負債合計 | ××× |
| 建設仮勘定 | 380 | (純資産の部) | |
| 土地 | ××× | 資本金 | ××× |
| 投資有価証券 | 10,000 | 資本剰余金 | 5,500 |
| 固定資産合計 | ××× | 利益剰余金 | 8,500 |
| 資産合計 | ××× | 純資産合計 | ××× |
| | | 負債純資産合計 | ××× |

2. 損益計算書

損益計算書

(単位：百万円)

| | |
|------------|--------|
| 完成工事高 | × × × |
| 完成工事原価 | × × × |
| 完成工事総利益 | 19,200 |
| 販売費及び一般管理費 | 10,500 |
| 営業利益 | 8,700 |
| 営業外収益 | |
| 受取利息配当金 | 384 |
| その他 | 400 |
| 営業外費用 | |
| 支払利息 | × × × |
| その他 | 200 |
| 経常利益 | × × × |
| 特別利益 | 200 |
| 特別損失 | 2,400 |
| 税引前当期純利益 | × × × |
| 法人税等 | × × × |
| 法人税等調整額 | △× × × |
| 当期純利益 | 2,760 |

3. 関連データ (注1)

| | | | |
|-----------|----------|-------------|---------|
| 総資本当期純利益率 | 2.30 % | 流動負債比率 (注2) | 68.00 % |
| 棚卸資産滞留月数 | 2.70 月 | 純支払利息比率 | 0.85 % |
| 借入金依存度 | 14.50 % | 固定長期適合比率 | 75.00 % |
| 固定比率 | 112.50 % | 受取勘定回転率 | 3.00 回 |
| 総資本回転率 | 0.80 回 | | |

(注1) 算定にあたって期中平均値を使用することが望ましい比率についても、便宜上、期末残高の数値を用いて算定している。

(注2) 流動負債比率の算定は、建設業特有の勘定科目の金額を控除する方法によっている。

〔第4問〕 次の<資料>は、横浜建設株式会社の損益計算書（一部抜粋）である。これに基づき、下記の問題に解答しなさい。なお、解答に際しての端数処理については、解答用紙の指定のとおりとする。 (15点)

<資料>

損益計算書 (一部抜粋)

(単位：百万円)

| | |
|------------|-------------------------|
| 完成工事高 | 285,000 |
| 完成工事原価 | 156,750 (うち変動費 119,750) |
| 完成工事総利益 | 128,250 |
| 販売費及び一般管理費 | 65,850 (うち変動費 17,050) |
| 営業利益 | 62,400 |
| 営業外収益 | 23,200 (うち受取利息 1,200) |
| 営業外費用 | 23,200 (うち支払利息 19,950) |
| 経常利益 | 62,400 |

- 問1 限界利益を求めなさい。
- 問2 損益分岐点比率を求めなさい。
- 問3 分子に実際完成工事高を用いた場合の安全余裕率を求めなさい。
- 問4 金利負担能力（インタレスト・カバレッジ）が3.60倍となる完成工事高を求めなさい。

〔第5問〕 西日本建設株式会社の第23期（決算日：平成×9年3月31日）及び第24期（決算日：平成×0年3月31日）の財務諸表並びにその関連データは<別添資料>のとおりであった。次の問に解答しなさい。（30点）

問1 第24期について、次の諸比率（A～J）を算定しなさい。期中平均値を使用することが望ましい数値については、そのような処置をすること。なお、解答に際しての端数処理については、解答用紙の指定のとおりとする。

- | | | |
|-------------|--------------------|------------|
| A 経営資本営業利益率 | B 流動比率 | C 未成工事収支比率 |
| D 負債回転期間 | E 自己資本比率 | F 総資本回転率 |
| G 労働装備率 | H 営業キャッシュ・フロー対負債比率 | I 付加価値率 |
| J 配当性向 | | |

問2 同社の財務諸表とその関連データを参照しながら、次に示す文の の中に入れるべき最も適当な用語・数値を下記の<用語・数値群>の中から選び、記号（ア～ル）で解答しなさい。期中平均値を使用することが望ましい数値については、そのような処置をし、小数点第3位を四捨五入している。

安全性分析とは一般的に企業の支払能力を分析することをいうが、さらには 分析・健全性分析・資金 分析に分類することができる。

分析は、短期的な支払能力を見るための分析であるが、流動比率よりもより確実性の高い支払能力をみるためには 比率を用いるが、同比率は 比率ともいわれており、第24期における 比率は、 %である。また、 比率とは、すでに完成・引渡した工事をも含めた工事関連の資金立替状況を分析するものであり、この比率は低いほうが望ましい。第24期における 比率は、 %である。

資金 分析では、資金のフローを示すキャッシュ・フロー計算書を作成し、これを分析に用いる。キャッシュ・フローを用いた収益性分析の一つが 率である。ここでの分子は、純キャッシュ・フローを用いる。第24期における純キャッシュ・フローは 千円であり、 率は、 %となる。

<用語・数値群>

- | | | |
|------------------|-----------|--------------------|
| ア 立替工事高 | イ 変動性 | ウ 有価証券 |
| エ 固定 | オ 活動性 | カ 営業キャッシュ・フロー対流動負債 |
| キ 酸性試験 | ク 安全余裕 | コ 未収入金 |
| サ 完成工事高キャッシュ・フロー | シ 流動性 | ス 当座 |
| セ 未成工事受入金 | ソ 未成工事収支 | タ 流動負債 |
| チ 損益分岐点 | ト 収益性 | ナ 安全性 |
| ニ 3.79 | ネ 5.56 | ノ 37.86 |
| ハ 37.98 | フ 45.09 | ヘ 164.04 |
| ホ 169.23 | ム 170.43 | モ 72,900 |
| ヤ 76,900 | ヨ 112,900 | ラ 117,900 |
| ル 167,900 | | |

第5問<別添資料>

西日本建設株式会社の第23期及び第24期の財務諸表並びにその関連データ

貸借対照表

(単位：千円)

| | 第23期 | 第24期 | | 第23期 | 第24期 |
|---------------|--------------|--------------|---------------|--------------|--------------|
| | 平成×9年3月31日現在 | 平成×0年3月31日現在 | | 平成×9年3月31日現在 | 平成×0年3月31日現在 |
| (資産の部) | | | (負債の部) | | |
| I 流動資産 | | | I 流動負債 | | |
| 現金預金 | 153,000 | 330,000 | 支払手形 | 100,000 | 120,000 |
| 受取手形 | 250,000 | 200,000 | 工事未払金 | 440,000 | 460,000 |
| 完成工事未収入金 | 800,000 | 680,000 | 短期借入金 | 160,000 | 130,000 |
| 有価証券 | 105,000 | 140,000 | コマーシャルペーパー | 3,000 | 3,000 |
| 未成工事支出金 | 47,000 | 65,000 | 一年内償還の社債 | 10,000 | 10,000 |
| 材料貯蔵品 | 5,000 | 5,200 | 未払金 | 2,000 | 2,100 |
| 短期貸付金 | 1,200 | 1,000 | 未払法人税等 | 6,000 | 13,000 |
| 繰延税金資産 | 400 | 18,000 | 未成工事受入金 | 67,000 | 149,000 |
| その他流動資産 | 34,000 | 38,000 | 完成工事補償引当金 | 7,000 | 6,000 |
| 貸倒引当金 | △ 17,000 | △ 9,500 | 工事損失引当金 | 45,000 | 33,000 |
| [流動資産合計] | 1,378,600 | 1,467,700 | その他の流動負債 | 14,000 | 15,000 |
| II 固定資産 | | | [流動負債合計] | 854,000 | 941,100 |
| 1. 有形固定資産 | | | II 固定負債 | | |
| 建物 | 120,000 | 128,000 | 社債 | 40,000 | 40,000 |
| 構築物 | 80,000 | 85,000 | 長期借入金 | 52,000 | 12,000 |
| 機械装置 | 30,000 | 30,000 | 繰延税金負債 | 130,000 | 130,000 |
| 車両運搬具 | 10,000 | 10,000 | 退職給付引当金 | 8,000 | 8,000 |
| 工具器具備品 | 10,000 | 10,000 | [固定負債合計] | 230,000 | 190,000 |
| 土地 | 300,000 | 310,000 | 負債合計 | 1,084,000 | 1,131,100 |
| 建設仮勘定 | 12,000 | 4,000 | (純資産の部) | | |
| 有形固定資産計 | 562,000 | 577,000 | I 株主資本 | | |
| 2. 無形固定資産 | | | 1. 資本金 | 300,000 | 300,000 |
| 借地権 | 2,200 | 1,800 | 2. 資本剰余金 | | |
| ソフトウェア | 2,300 | 2,200 | 資本準備金 | 20,000 | 20,000 |
| 無形固定資産計 | 4,500 | 4,000 | 資本剰余金計 | 20,000 | 20,000 |
| 3. 投資その他の資産 | | | 3. 利益剰余金 | | |
| 投資有価証券 | 401,000 | 450,000 | 利益準備金 | 25,000 | 25,000 |
| 関係会社株式 | 20,000 | 20,000 | その他利益剰余金 | 800,000 | 900,000 |
| 長期貸付金 | 1,800 | 1,700 | 利益剰余金計 | 825,000 | 925,000 |
| 破産更生債権等 | 100 | 100 | 4. 自己株式 | △ 126,000 | △ 126,000 |
| その他投資 | 38,000 | 36,600 | [株主資本合計] | 1,019,000 | 1,119,000 |
| 貸倒引当金 | △ 20,000 | △ 20,000 | II 評価・換算差額等 | | |
| 投資その他の資産計 | 440,900 | 488,400 | その他有価証券評価差額金 | 283,000 | 287,000 |
| [固定資産合計] | 1,007,400 | 1,069,400 | [評価・換算差額等合計] | 283,000 | 287,000 |
| 資産合計 | 2,386,000 | 2,537,100 | 純資産合計 | 1,302,000 | 1,406,000 |
| | | | 負債純資産合計 | 2,386,000 | 2,537,100 |

[付記事項]

1. 流動資産中の貸倒引当金は、受取手形と完成工事未収入金に対して設定されたものである。
2. その他流動資産は営業活動に伴うものであるが、当座の支払能力を有するものではない。
3. 投資その他の資産は、すべて営業活動には直接関係していない資産である。
4. 引当金及び有利子負債に該当する項目は、貸借対照表に明記したもの以外にはない。
5. 第24期において繰越利益剰余金を原資として実施した配当の額は25,000千円である。

損益計算書

(単位：千円)

| | 第23期 | | 第24期 | |
|----------------|-----------------------------|-----------|-----------------------------|-----------|
| | 自 平成×8年4月1日 至 平成×9年3月31日 | | 自 平成×9年4月1日 至 平成×0年3月31日 | |
| I 完成工事高 | | 2,050,000 | | 2,031,000 |
| II 完成工事原価 | | 1,820,000 | | 1,760,000 |
| 完成工事総利益 | | 230,000 | | 271,000 |
| III 販売費及び一般管理費 | | 142,000 | | 153,000 |
| 営業利益 | | 88,000 | | 118,000 |
| IV 営業外収益 | | | | |
| 受取利息 | 900 | | 650 | |
| 受取配当金 | 10,000 | | 10,000 | |
| その他営業外収益 | 2,000 | 12,900 | 3,000 | 13,650 |
| V 営業外費用 | | | | |
| 支払利息 | 1,700 | | 1,600 | |
| 社債利息 | 800 | | 800 | |
| 為替差損 | 2,600 | | 100 | |
| その他営業外費用 | 300 | 5,400 | 450 | 2,950 |
| 経常利益 | | 95,500 | | 128,700 |
| VI 特別利益 | | 3,400 | | 1,700 |
| VII 特別損失 | | 2,800 | | 3,400 |
| 税引前当期純利益 | | 96,100 | | 127,000 |
| 法人税、住民税及び事業税 | 8,200 | | 14,000 | |
| 法人税等調整額 | △ 1,000 | 7,200 | △ 18,000 | △ 4,000 |
| 当期純利益 | | 88,900 | | 131,000 |

〔付記事項〕

1. 第24期における有形固定資産の減価償却費及び無形固定資産の償却費の合計額は9,400千円である。
2. その他営業費用には、他人資本に付される利息は含まれていない。

キャッシュ・フロー計算書 (要約)

(単位：千円)

| | 第23期 | | 第24期 | |
|----------------------|-----------------------------|----------|-----------------------------|-----------|
| | 自 平成×8年4月1日 至 平成×9年3月31日 | | 自 平成×9年4月1日 至 平成×0年3月31日 | |
| I 営業活動によるキャッシュ・フロー | | 10,000 | | 350,000 |
| II 投資活動によるキャッシュ・フロー | | △ 28,000 | | △ 36,000 |
| III 財務活動によるキャッシュ・フロー | | △ 4,000 | | △ 137,000 |
| IV 現金及び現金同等物の増加・減少額 | | △ 22,000 | | 177,000 |
| V 現金及び現金同等物の期首残高 | | 175,000 | | 153,000 |
| VI 現金及び現金同等物の期末残高 | | 153,000 | | 330,000 |

完成工事原価報告書

(単位：千円)

| | 第23期 | | 第24期 | |
|-----------|-----------------------------|-----------|-----------------------------|-----------|
| | 自 平成×8年4月1日 至 平成×9年3月31日 | | 自 平成×9年4月1日 至 平成×0年3月31日 | |
| I 材料費 | | 309,400 | | 299,200 |
| II 労務費 | | 127,400 | | 123,200 |
| (うち労務外注費) | (98,000) | | (104,000) | |
| III 外注費 | | 1,092,000 | | 1,056,000 |
| IV 経費 | | 291,200 | | 281,600 |
| 完成工事原価 | | 1,820,000 | | 1,760,000 |

各期末時点の総職員数

| | 第23期 | 第24期 |
|------|------|------|
| 総職員数 | 35人 | 37人 |